



博報堂生活総合研究所 「生活者にきいた“2025年 生活気分”」結果

調査対象	全国11都市（首都圏および名古屋、阪神、札幌、仙台、新潟、金沢、静岡、広島、高松、福岡）の20～69歳の男女
調査方法	インターネット
有効回答数	3,900人（男性1,943人、女性1,957人）
調査時期	2024年10月1日～10月4日

博報堂生活総合研究所では、2015年から生活者を対象に翌年の景況感などについて予想してもらう調査を毎年実施している。今回は、昨年11月21日に発表された最新の結果から、シンクタンクや金融機関とはひと味違う生活者目線からの2025年の景況感についてみてみたい。

2025年の景気は「悪くなる」……37.7%

調査は昨年10月に実施されている。この時点で、ことし（2024年）と比べて翌年（2025年）の「世の中の景気」がどうなると思うか予想してもらった。その結果、「良くなる」と回答した人は10.8%、「悪くなる」は37.7%、「変わらない」は51.5%だった。

2020年以降の変化をみると、コロナ禍にあった2021年、2022年は、世の中の閉塞感から抜け出したいという生活者の希望や期待などが反映されたためか、「良くなる」と回答した人が20%台と増加したものの、新型コロナウイルス感染症が収束した2023年以降は10%台で推移、2025年はここ数年で最も低くなっている。

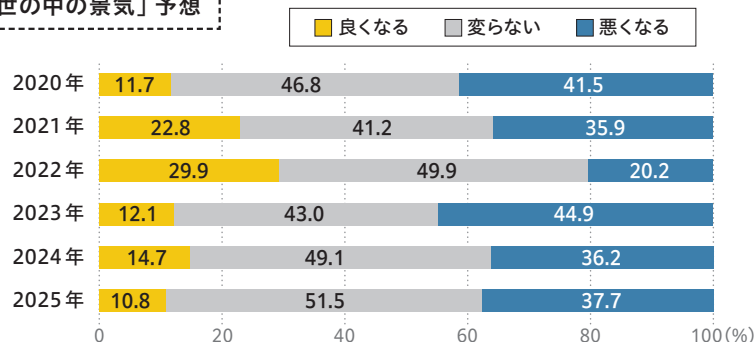
“景気が良くなる”は「希望的観測」……26.5%

2025年が「良くなる」と回答した人の理由（自由回答）を集計したところ、最も高かったのが、「希望的観測」で26.5%、以下、「新

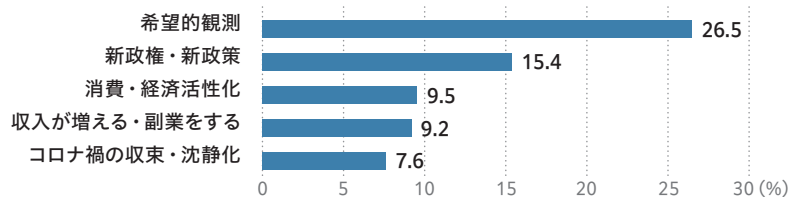
生活者目線からみた2025年の景気予想は「良くなる」

10.8%

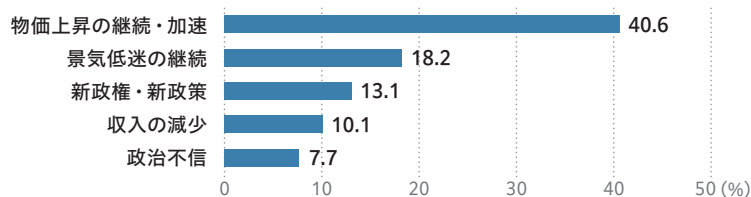
「世の中の景気」予想



「良くなる」と思う理由（自由回答を集計したトップ5）



「悪くなる」と思う理由（自由回答を集計したトップ5）



政権・新政策」15.4%、「消費・経済活性化」が9.5%で続いている。

「悪くなる」と回答した人は、「物価上昇の継続・加速」が40.6%で最も高くなっており、「景気低迷の継続」18.2%、「新政権・

新政策」が13.1%が続いている。

生活者からみた景況感は、希望的観測よりも物価高という目の前の現実に影響されているようだ。

（インテリジェンスバリューコーポレーション株式会社 岩村克俊）